

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年2月20日

事業所名：スパーク草津店

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			各々の遊びに取り組む中で、声掛けやスペースの分け合ったり、危険な遊びにならないよう、安全面と特性に考慮している。	高学年や、運動量等考慮し、人数や遊びの調整を行っていく。
	2	職員の配置数は適切である			法令で必要とされている配置数で運営している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			遊ぶスペースと事務所は、ドアで分かれており、特性に合わせて療育道具を設置する等、配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している			朝礼後に目標の暗唱、週に数回療育の振り返りを行う等の時間を設け、常に目標や課題を意識できるように工夫している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			保護者様からいただいたご意見等は、記録に残し全員が把握できるようにし、業務の見直し等行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			ホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				第三者評価は実施していない。 契約時に記載済み。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			定期的に研修の機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している			児童発達支援管理責任者を中心に、全職員と連携を取りながら、作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			スパーク協会が独自に設けたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている			支援計画をもとに、必要なアプローチ等、話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している			発達段階に合わせて、お子様の興味から運動（遊び）を行っている為、プログラムは固定にならない。同じ遊びにならないよう、療育士が変化を加える等、工夫をしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している				60分の療育の為、平日休日に関わらず、お子さまに合わせた療育メニューを設定している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している			お子様の興味に合わせて遊びを展開していく中で、他児との関わりに繋がる場面を作っていくよう、支援計画書を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している			毎療育前に支援計画とともに感覚特性や注意事項、お子様の様子を共有する時間を設けている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			サービス提供記録とは別に、毎療育後に振り返りシートにて療育内容の振り返りを行っている。次回の療育にも繋がるよう、記録は職員全員が確認できるようになっている。	

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている			毎療育後、サービス提供記録を記入している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している			少なくとも6ヶ月に1回、児童発達支援管理責任者を中心に行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている			各々に合わせ、複数組み合わせて支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		事前に店舗内でミーティングを行い、管理者を中心とし、会議に参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている		事業所と学校が直接連絡を取ることは少ないが、保護者様を通して、必要な情報を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		保護者様からの要望がある場合、また関係機関から依頼があった場合に情報共有を行っている。 (保護者様の承諾を得られた場合のみ)	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当者なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		必要に応じて連携を取り、研修が開催される場合は、積極的に参加している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			実施していない。 60分の療育の為、時間を作るのが難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		協議会や研修がある際は、積極的に参加するようにしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		毎療育後に、お子様の様子についてお伝えする時間を設けている。(コロナウィルスの影響により、現在は短縮している。)	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			プログラムとして設けてはいるが、場面に に応じて、療育への参加を促している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		契約の際に実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		必要に応じて実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		相談や申し入れがあった場合、全職員に共有し、対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		スパーク便りやSNSを通して、活動概要等発信している。	
	35	個人情報に十分注意している		細心の注意を払うとともに、個人情報を使用する際は、事前に許可をいただいている	

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている			お子様や保護者様に合わせてアプローチしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			職員に周知を行い、可能な限り利用者様を含めての訓練を実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			半年に1回実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			委員会を設け、研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				支援計画書に記載していないが、やむを得ず身体拘束行う場面については、契約の際に説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				療育中に食事の時間はない為、医師からの指示等は受けていない、契約時にアレルギー等に関する確認は行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			作成、共有し、保管している。	